

若いなかま

発行 (公社)福岡県青少年育成県民会議

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番50号

吉塚合同庁舎6F

TEL(092) 643-6001 FAX(092) 643-6003

E-mail : net.y.d@isis.ocn.ne.jp

ホームページ : http://www.fayd.jp/



目次

表紙 (県民さわやかマラソン)	1
県民さわやかマラソン	2
県青少年育成指導者研修会および家庭の日・オアシス運動 最優秀作品表彰式	3
乳幼児教育研修会	4

特集「特定非営利活動法人 北九州DARC」 ..	5
地域の話(荻田町、糸島市、筑前町、行橋市) ..	6
平成26年度 (公社)福岡県青少年育成県民会議賛助会員のご紹介 ..	7
青少年育成“考” その他	8

(公益社団法人)福岡県青少年育成県民会議は、

青少年問題の重要性にかんがみ、広く県民の総意を結集し、国や県の施策に呼応して、総合的な運動を展開し、将来を担う青少年の健全な育成を図ることを目的に昭和41年12月13日に結成されました。
(昭和45年 社団法人。平成25年4月1日公益社団法人に移行となる。)

2014福岡県民さわやかマラソン大会

2014年11月30日(日)
海の中道海浜公園
特設コース
(福岡市東区西戸崎)

今年で14回目を迎える「福岡県民さわやかマラソン大会」が、海の中道海浜公園にて開催され、大いに盛り上がった。

この大会は、心身共にたくましい青少年の育成や勤労者の健康増進を図り、家族のふれ合いを深めるなどの目的で毎年開催されているが、今年は雨の中での大会となり、参加者にとっては雨と寒さに耐えながらの大会となった。

来年こそは青空の下での大会となるよう今から願っている。

会場の熱気は最高潮!

午後9時過ぎには受付に参加者が続々と集まり始め、開会式が始まる頃には会場いっぱいの人々が溢れ、みんな競技のスタートを待ちきれない様子である。

今年の参加者は2513人、その熱気が会場全体を包み、寒風や雨空を吹き飛ばす。

会場の熱気は最高潮!



いよいよスタート!

開会式は(公社)福岡県青少年育成県民会議副会長後藤秀昭氏の開会宣言に始まり、遠来賞・シルバー賞の表彰、田中準一君と判春樹さんの選手宣誓など続き、最後は参加者全員での準備運動で開会式を終了。さあいよいよ競技スタート。

今日は修行だあ!

雨の中、競技が始まり、種目別に次々とスタートが切られた。

競技終了後にある男性から発せられた言葉

「今日は、修行だあ!」

このひとことに、今日の競技状況の厳しさが凝縮されているように感じた。



目標はオリンピック!

表彰式が行われる頃は大量の雨となり、狭いテントの中での突撃取材となった。

親子での参加者や中学生、高校生等に取材を試みたが、その中で特に印象に残ったのは、東京オリンピックが正に現実となり、「目標はオリンピック」と、はつきりとした目標を口にする頼もしい参加者が多いこと。また、来年も参加したいという参加者が多かったのはとても救いであった。

種目別入賞者

- ▼1キ口(小学1年)「男子」①有田空矢②赤池勇思③村上 慶「女子」①一木華愛②濱口 舞③井上芽依(小学2年)「男子」①上村洋司郎②倉掛 温③山本來宕「女子」①長 涼葉②上野詩音③洲上彩代(小学3年)「男子」①脇田哲匠②藤本祐輔③西岡樹希「女子」①別當映彩②入江紗羽③榎本心子(親子)①田中大智・秀虎②合原政幸・幸佑③大久保忠・智矢
- ▼2キ口(小学4年)「男子」①原田幸之介②藤本竜飛③那須尋仁「女子」①尾形実穂②大庭千夏子③山本咲希(小学5年)「男子」①河津尚希②山本碧士③別當優央「女子」①安部咲月②工藤琉楠③甲斐千尋(小学6年)「男子」①石田洸介②庭瀬俊輝③脇田大也「女子」①藤岡加梨②中尾伽音③榎本羽菜(中学生)「男子」①島崎昇汰②北村弦大③永田侑駿「女子」①国武野の花②渡邊まい③橋本沙季(高校生)「男子」①宇土尚之②的場凍弥③伊地知真也「女子」①山田みちる②大石綾乃③大西由真(親子)①庭瀬政徳・沙耶②井上 亮・福山 柊③鎌田直宏・棟馬
- ▼5キ口(中学生)「男子」①中野拓海②松原 築③中山広貴「女子」①中尾有梨沙②橋 未也美③御厨夏椰(高校生)「男子」①堀江淳太②川崎流我③瀬戸聖天「女子」①馬場早弥奈②大庭風紗③倉田清香
- ▼10キ口(高校生)「男子」①副田典岐②成松哲也③成松将也

MUSBOとnimocaが仲良くなりました。

MUSBO × nimoca

クレジット一体型ICキャッシュカード<MUSBO>に、
<nimoca>の機能がついて、ますます便利になりました。



この街でこいっしょに
福岡中央銀行



平成26年度福岡県青少年育成指導者研修会 「家庭の日・オアシス運動」作品最優秀賞受賞者表彰式

平成27年1月24日福岡市吉塚の中小企業振興センターにおいて福岡県青少年育成指導者研修会が開催された。福岡県下の市町村民会議の育成推進指導員やアドバイザー、県民会議の理事や監事など約70名が参加した。

この研修会に先立って「家庭の日・オアシス運動」作品の最優秀賞受賞者の表彰式があり、作文の部には大野浩志君（大牟田市田隈中学校3年）、ポスター部門には松山楓花さん（宗像市河東中学校2年）が表彰された。受賞後、大野君の作文の朗読があり会場から多くの拍手が送られた。またこれらの作品は2月2日から13日まで県庁のロビーに展示された。



受賞後のインタビューで、「受賞は信じられなかったし、うれしかった」と同じ感想を。作品の動機について、大野君は「日頃の家族への感謝を表わしたかった」松山さんは「テーマ

を家族の笑顔にしたかったので色彩も明るい色づかいにしました」と話してくれた。表彰式の後、右田喜章会長の挨拶に続き、二人の講師による研修会が行われた。

〔研修会〕

◆ AOUのゲームセンターにおける青少年への対応 ◆

一般社団法人 全日本アミューズメント施設
営業者協会連合会 専務理事・鈴木剛夫氏

AOUとは「全日本アミューズメント施設営業者協会連合会」の略称で、都道府県のゲームセンターの8割以上が加入しており、青少年が安全で娯楽を楽しむ場の提供と青少年育成に取り組んでいる。世間では、ゲームセンターはまだ悪いイメージが強いかもしれないが、AOUでは時間規制（16歳以下の18時以降の立ち入り禁止）や金銭の管理までしており、1000円以上の出費は声掛けなどして浪費を防ぐ対策もしている。ゲームセンターは子ども達の息抜きの場、一つの社会経験を積む場として位置づけその空間を提供している。そこで、AOUの活動として

- ① 地域社会への交流（地域懇談会・地域社会への奉仕・子ども110番）

- ② 青少年問題への取り組み（青少年指導者養成講座・青少年の非行防止、健全育成運動への協賛を通じての社会貢献活動・店舗管理者研修会・全国青少年健全育成強調月間への全面協力）

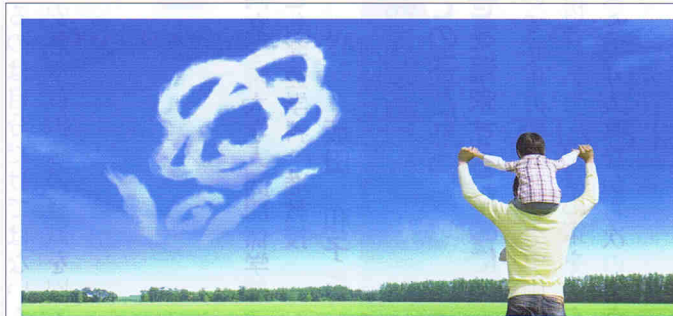
- ③ 健全な発展を目指して「アミューズメントを健全に運営し、子どもたちの息抜きの場所、一社会としてのゲームセンターの役割を果たしていきたい」と締めくくった。

★ 家庭教育の基本は性格づくり ★

福岡県非行防止・ネット依存防止
地域ミーティング講師 伊藤功一氏

伊藤氏は福岡県警OBで元中間市少年相談センターの所長。現在は青少年育成のための講演を各地で行っている。青少年の問題の根本は「性格」であるという位置づけで35年間「性格と人生」について研究、学んできた。

- ① 性格は家庭で作られる。
- ② 同一体験は同一経験にはならない。
- ③ 健康・幸福は喜びより、喜びは和合円満より、和合円満は性格より、性格は生まれと育ちより…など多くの事例やご自身の体験、研究してきたことを踏まえると、最終的には「性格」に到達する。性格が一番大切であり、ものの見方も「性格」で180度かわる。性格を変えることは難しいが努力が必要であり、子どもの責任より親の責任が大きいと説く。時間内では語り切れなかった様だが、伊藤氏の独自の世界感と熱意は伝わった。



いつもそこに、いつでもそばに。



ココロがある。コタエがある。
西日本シティ銀行



平成26年度乳幼児教育研修会

日時：平成27年2月19日(木) 場所：九州共立大学自由ヶ丘会館4階多目的ホール

子どもの成長において乳幼児期の子育てが大変重要であること、また地域で実施されている親子教室を支援することを目的として開催され、保育関係者等132名が参加した。県青少年育成県民会議の半田眞弓家庭部会長の開会挨拶に始まり、親子教室の事業報告、午後からは福岡女学院大学准教授坂田和子氏の基調講演が行われた。

親子教室事業報告

田川市青少年育成連絡協議会 「0歳期からの親子教室」

今年度は、妊婦、保護者その他乳幼児教育に関心のある人を対象に田川市民会館において6回開催した。事業内容は、地元の行政等の関係機関、県立大学、医療機関で構成される企画運営委員会で決定した。

講座の演題は、①「子どもの症状と病院受診のタイミング」②「アトピー性皮膚炎って、何？」乳幼児湿疹、大丈夫ですか？③「救急時の対応と事故予防について」④「妊娠・出産・子育て 至福の季節」⑤「スマホ・ゲーム・テレビと乳幼児くながい？」⑥「0歳から3歳の発達・子育てに大切なこと」。

柳川市青少年育成市民会議

「子育て広場」in 蒲池中学校

子育て親子が地域に向き交流するきっかけづくりを目的として、子育て支援グループ「このゆびとまれ」が主体となり、柳川市立蒲池中学校の地域ルームを活用して今年



度10回実施。10時半から15時まで、ベビーマッサージ、おはなし会（絵本の読み聞かせ）、手遊び、わらべ歌、ランチタイム、自由遊びとプログラムは続くが、いつ来ても帰ってもよい。自由に自由で遊べる参加しやすい広場となっている。学校の昼休みに中学生がやって来て、乳幼児、保護者とふれあい、中学生が「命の大切さ」「家庭の大切さ」を学ぶ場ともなっている。おたのしみ企画として、手作りのおやつを食べながら和やかな雰囲気の中で子育ての悩みやアイデアを出し合う交流会「ポレポレカフェ」を2回実施。中学校の中に広場があることから、中学生、親子も、地域が一体となっている。

糸島市青少年育成市民会議

「つなげる・つながる・子育て支援の輪」

親子教室実行委員会が6回実施。①育児に忙しいママのための料理教室②親子でみんな一緒に遊ぶ子どもフェスタ2014③絵本のつもりもり（赤ちゃんから大人まで楽しめる絵本の展示、おはなし会）④親子でにじみ絵に取り組む絵画造形教室⑤わが子最高！元気になる子育て講座⑥何でもOKのおしゃべり会「くつろぎカフェ」。

子どもの成長に欠かせない親子のふれあい、あそび、食について、この事業によって様々な体験をすることができ、参加者も主催者も共に成長することができた。また、地域の子育て団体と行政が共催することで子育て支援のネットワークの拡充につながったといえる。特に「くつろぎカフェ」は参加希望が

多く、「悩んでいるのは自分だけではないんだ。」と育児の不安感や負担感の軽減を図ることができた。

基調講演



福岡女学院大学人間関係学部
子ども発達学科 准教授
坂田 和子氏

乳幼児の発達障害

「すべての子どもに」

幸せを追求するために

発達障害について昨年の続編として実施された。今回は支援者としての対応策を中心に、エクササイズを取り入れながら次のような話があった。

文部科学省調査等によれば、発達障害の罹患率は約1割と見ることができであろう。支援者が時に困惑し、不安になることもあろうが、支援策にパターン化されたものはない。カウンセリングをこれまで数多くやってきたが、同じ事例は一つもないからである。従って、支援者は子どもの行動からその思いを汲み取り、その子独自の支援策をとることが求められる。子どもの行動の背後に何があるか、どのような気持ちなのか、その行動の意味を注意深く考えなければならぬ。

すべての子どもは発達に凹凸がある。大切なことは、障害のあるなしに関わらず、子どもが生きるうえで生活しやすくその子らしさが受け入れられる環境があること。他者に受け入れられて、初めて自己を受け入れ、肯定感を高めることができるのである。

特集

特定非営利活動法人

北九州 DARC

ダルク

- D ドラッグ (DRUG=薬物)
- A アディクション (ADDICTION=嗜癖、病的依存)
- R リハビリテーション (REHABILITATION=回復)
- C センター (CENTER=施設、建物)



取材を受けていただいた堀井氏 (左)

◇スタッフは全員が薬物依存からの回復者。毎年1~2回の研修を受け、仲間として入寮者の自立をめざし、使わない生き方の実践をしている。

■北九州DARCは北九州市の補助を受け、開設されて今年で18年になる。職員は・非常勤・ボランティアを含め5名。利用者は、年間約20人。立ち直って退所するのは年間一人ほど。つながった人すべてが止められるわけではない。

現在、20歳代から40歳代の薬物、アルコール依存者が入所。男性が多い。通所は地元出身者。入寮者は県外がほとんどで、門限やアルコールの持込み、暴力など禁止事項を守らなければならない。

施設は全国で約80カ所 福岡県内2カ所

■依存の発端は、人間関係がうまくとれない等、つらい現実に耐えることが出来ず薬を使うことで現実から逃げ、使いつづけることで依存という深みにはまる負の連鎖から起こる。

当事者のやる気や、身近な人の叱咤激励によって改善されるものではなく、回復に向けては、治療や援助が不可欠である。

■薬物依存による「犯罪」の罰則だけで依存者は救われない。抜け出したいが一人ではできない「病氣」。そこからの回復を依存者自身や家族が気づき、願った時、「大丈夫だよ」と支える仲間がいる。それがDARCのスタッフであり、同じ苦しみを分かち合える仲間でもある。

■DARC独自のプログラムを通して繋がりを、仲間の話を聞きながら自分が薬物に依存してきた精神的な背景を認識し、解決していくための手掛かりを見つけていく。この依存者同士のグループセラピーの重要性はすでに、病院・行政・司法関係者からも支持されている。

「社会的弱者」

■薬物に依存してしまっただが、そこから何とか立ち直りたいと願う人や家族に、寄り添うように、支援し活動している民間団体がある。

今回、薬物依存からの回復のために、DARCを訪問し、団体の理事、精神保健福祉士でもあるディケアセンター施設長の堀井宏和氏にお話を伺った。

「薬物依存」は回復する「病氣」

■北九州DARCでの一日は、グループセラピー(ミーティング)、SSJ(ソーシャルスキルトレーニング)、フリープログラム(スポーツなど)、自助グループZAV(ナルコティクス・アノニマスの略)1953年にアメリカで始まって以来、世界各国に広がった薬物依存者の自助グループへの参加。もちろん食事、洗濯、身の回りのことは自分でする。できるところから、自分自身で依存を切り離していく強さを徐々に身に付けていく。

■ここは依存を止めるためにリハビリをさせる場所ではなく、仲間とのつながりの中で人間関係を自分で身につける場所。社会の中で学習していくことが大切と堀井氏は結んだ。

北九州DARC (特定非営利活動法人)
〒802-0064 北九州市小倉北区片野4-13-30-1F
TEL/FAX 093-923-9240
ホームページhttp://www.k-darc.jp
E-mail pleasureship@cronos.ocn.ne.jp

■取材を終えて、依存の原因は何か考えた。家庭・学校・社会が抱える複雑な問題があり、答えは容易に出ない。

ただ、子どもの頃の様々な体験、人との出会いやつながりを通して、自分を大切にすることをちゃんと学んでいくのではないかな。確かな自尊心を育むことが不可欠であると改めて思った。

堀井氏の「人生の中で回り道は、決して無駄とは思わない」の言葉が今でも心に響いている。

FFG ふくおかフィナンシャルグループ

あなたのいちばんに。

福岡銀行



地域の話題

平成26年度第2回
親子ふれあい広場

「凧ひくす」

凧あげ大会」開催

苅田町青少年育成町民会議



1月25日(日)苅田町立新津中学校体育館で、苅田凧の会の指導のもと、親子約90名が参加しました。子どもたちは、和紙一面、自由に絵を描き上げ、竹ひこ、凧糸、しつぽをつけ完成!!早速、校庭へ飛び出し、青空の下元気いっぱい駆け回っていました。

苅田凧の会のみなさんに揚げるコツのアドバイスをいただきながら、ぐんぐん揚がる凧に大歓声!!親子で協力して作り上げ、高く揚がった凧のすばらしさをみんなで感じ合えたことは、きつと素敵ない出となったことでしょう。

今後も親子ふれあいを通し、日本古来の遊びの楽しさを子どもたちに伝えていきたいと思えます。遊んだ後は、アツアツの豚汁・ぜんざいが

振る舞われ、湯気の向こうに笑顔があふれていました。

糸島市

ジュニアリーダーズクラブ

「どんぐり」

糸島市生涯学習課

糸島市では、中高生を対象としたジュニアリーダーズクラブ「どんぐり」事業を実施しています。

異年齢の仲間たちが集まり、キャンプをはじめ、ものづくりやロープワーク、マリンスポーツ体験やディベート講座、レスキュー講習会などの日常生活ではなかなか体験できない様々な活動を通じて、知識や技能を習得し、変化の激しいこれからの社会をたくましく生きていく力を育てています。

また、

地域のリーダーとして、市の青少年育成事業や子ども会活動にも積極的に参加しています。



2014筑前町

「ちゅもんのびんご」

筑前町青少年育成町民会議



平成26年10月19日(日)に、「2014筑前町子どものつどい」を行いました。午前の部はホール内での活動発表、午後の部では保護者や関係者の協力もあり、子ども達が広場で出店をしました。

夏休み期間中に実行委員会を開催し、子ども達の想いで、すべてを作り上げていきました。テーマは「みんなが笑顔」。最初の実行委員会で緊張していた様子でしたが、会議を重ねるうちに「もっとこうした方がいい。」という意見が出るようになりました。本番前では、子ども達が持ち場について積極的に確認する姿や来場者に対して声をかける姿がとても印象的でした。

開催日の前週に台風に見舞われましたが、当日は天候にも恵まれ、まさにテーマどおりの笑顔が溢れたつどいとなりました。

「声かけ運動等の取り組み」

行橋市仲津校区補導部会

補導部会は3班に編成され、学童安全補導班は、小学校入学式の翌日より1週間、小学校校門前で朝の登校時に新一年生を含んだ子ども達に声掛けをする。

新田原駅補導班は、春休みと夏休み明けの夕方1週間、駅前主に乗降客の学生さんや会社員の方々に声掛けをする。

夜間パトロール班は、仲津公民館を出発して、コンビニ、駅、公園など、子ども達が集まりそうな所を夏休みと春休みの週末の夜、約1時間巡回する。

これらの3班による活動を年間計画に基づいて、地域の各種団体(老人クラブ・婦人会・民生児童委員・ボランティア・小中学校教職員・小中学校PTA・消防団・少年補導員等の方々)の協力をいただき、適材適所に配置することによって、子ども達の健全育成に取り組んでいます。



平成26年度 (公社)福岡県青少年育成県民会議へ賛助いただいた会員のご紹介

(敬称省略：50音別・平成27年3月2日現在)

次の世代を担う青少年の健全育成活動にご支援いただき、誠にありがとうございます。心から御礼を申し上げます。何卒今後もご協力ご支援をお願い申し上げます。

正 会 員 (173団体・人)

市 町 村 民 会 議	58	県 民 会 議 理 事	24
県 民 会 議 会 長	1	県 民 会 議 専 門 部 会 等 委 員	23
県 民 会 議 副 会 長	3	県 民 会 議 青 少 年 育 成 運 動 推 進 指 導 員	64

特別賛助会員 (24 団体)

(株) ア キ ラ 水 産	(株) 筑 邦 銀 行	(一 社) 福 岡 県 共 栄 会
エントリースerviceプロモーション	(株) 西 日 本 シ テ イ 銀 行	福 岡 県 信 用 保 証 協 会
九州電力	(株) 西 日 本 新 聞 エ ス ピ ー セ ン タ ー	(公 社) 福 岡 県 宅 地 建 物 取 引 業 協 会
九州旅客鉄道	(株) 西 日 本 鉄 道	福 岡 県 町 村 協 会
(株) 九 電 工	日 本 映 像 ソ フ ト 制 作 ・ 販 売 倫 理 機 構 九 州 支 部	福 岡 県 公 認 ホ ウ リ ン グ 場 協 会
コカ・コーラウエスト	(株) 日 本 た ば こ 産 業	(株) 福 岡 中 央 銀 行 や
西部ガソリン	(株) 福 岡 銀 行	ボ ン ン ウ エ イ
J A バ ン ク 福 岡	福 岡 県 ア ミ ュ ー ス メ ン ト 施 設 営 業 者 協 会	

賛助会員《団体》(61 団体)

(株) あ ら い	(医) 光 風 会 宗 像 病 院	(有) 深 町 印 房
NPO飯塚市青少年健全育成会連絡協議会	(医) 高 邦 会 高 木 病 院	福 岡 空 港 ビ ル テ イ ン グ
石 橋 印 刷	公 立 学 校 共 済 組 合 福 岡 宿 泊 所	福 岡 県 私 学 協 会
(株) 石 村 萬 盛 堂	小 竹 町 御 徳 工 業 団 地 企 業 連 絡 協 議 会	(一 社) 福 岡 県 私 立 幼 稚 園 振 興 協 会
糸 田 町 自 由 ケ 丘 老 人 ク ラ ブ 鷺	(株) 三 裕 会 三	福 岡 県 農 商 工 会 連 合 会
崎 建 設	(医) 三 裕 会 拾 六 町 病 院	福 岡 県 農 業 協 同 組 合 中 央 会
岩 本 明 子 建 設 話 教 室	三 和 ス ポ ー ツ	福 岡 県 遊 技 業 協 同 組 合
上 村 建 設	NPO法人次世代のチカラFUKUOKA	(一 社) 福 岡 県 勞 働 者 福 祉 協 議 会
(株) 工 イ コ	新 日 鐵 住 金 (株) 八 幡 製 鐵 所	(社 福) 福 岡 コ コ 二
(株) お お す み 制 服 会	(医) 成 晴 会 堤 病 院	富 士 火 災 海 上 保 險
大 野 城 ラ イ オ ン ス ク ラ	(株) 瀨 利 宗 助 商 店 社	(学) 藤 上 フ ア イ ン
(一 社) 九 州 学 士 会	(株) 高 木 印 刷	(株) フ ラ ワ ー ビ デ
粕 屋 殖 産 産 業	(株) 千 鳥 饅 頭 總 本 舗	(株) 丸 信
嘉 穂 無 線 ホ ー ル テ イ ン グ ス	(株) 東 京 海 上 日 動 火 災 保 險	(株) 三 井 松 島 産 業
(株) 環 境 開 発	(株) 西 日 本 新 聞 印 刷 館	(株) 三 井 松 島 産 業
苅 田 ラ イ オ ン ス ク ラ	(株) 西 日 本 新 聞 印 刷 館	(株) 三 井 松 島 産 業
(合) キ ャ メ ラ	(株) 二 宮 佛 具 製 作 所	(株) 明 治 安 田 生 命 保 險 相 互 会
キ ュ ー サ イ ル	(株) ハ ー チ ャ ン	(株) 百 山 本 工 務
九 州 ホ テ ル	(株) ヒ ュ ー リ ス ア カ デ ミ	(株) ワ イ ズ ヨ シ ハ ラ
久 留 米 商 工 会 議 所	(株) ヒ ュ ー リ ス ア カ デ ミ	
桂 川 ラ イ オ ン ス ク ラ		

個人賛助会員の皆様

青木 毅	植田 茂	緒方 方	祐介 祐	木室 和	柴田 照	中田 哲	中村 清	東野 芳	枝生 真	真子 太	尾守 隆	行三 隆
青野 隆子	植田 富士	岡松 成	直照 親	草場 浩	津島 俊	田中 信	中村 征	野久 正	生 尚	美 智	守 田 永	三 彦
赤星 満子	上野 野	岡野 成	照 潔	保谷 博	津島 幸	中村 睦	中村 幸	久 尚	松 石	美 智	森 永	三 彦
秋山 幸二	植松 祐	岡村 祐	照 潔	熊谷 健	下 茂	田中 睦	中村 幸	久 尚	山 幸	美 智	森 永	三 彦
浅野 翔	村上 育	小川 久	照 潔	熊谷 健	庄 白	田中 睦	中村 幸	久 尚	滑 石	美 智	森 永	三 彦
阿多 一信	上島 隆	奥 尾	照 潔	熊谷 健	藤 進	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
阿部 英三	内山 慶	尾 本	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	武 比	美 智	森 永	三 彦
阿部 潤	内山 勝	忍 十	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
新井 洋子	梅川 由	藤 石	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
新井 博	梅田 幸	音 成	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
有吉 義子	江川 洋	原 正	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
井浦 千秋	江崎 美	山 陰	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
石川 治夫	江崎 真	笠 原	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
石丸 千恵子	江崎 正	柏 木	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
市川 仁志	江藤 天	数 月	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
伊東 明子	大内 マツノ	加 藤	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
伊東 清寛	大里 キ	金 澤	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
伊東 千	大里 亮	島 樺	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
伊東 望	大里 大	島 樺	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
福富 高	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
井上 智治	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
井上 俊二	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
今富 美代子	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
入江 幸二	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
岩村 征四郎	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
植木 節美	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦
植木 津枝	大田 哲	神 谷	照 潔	熊谷 健	末 次	田中 睦	中村 幸	久 尚	日 比	美 智	森 永	三 彦

事務局だより

主な行事(H25年11月16日～H26年3月15日)

- 11月
 - 17日(月)第9回広報部会
 - 19日(水)青連協定例常任委員会 (以降、12/18)
- 12月
 - 21日(金)青少年問題協議会
 - 25日(月)～26日(火)中央研修会、代表者会議
 - 全国青少年育成県民会議連合会総会
 - 30日(日)第14回福岡県民さわやかマラソン大会
 - 6日(土)～7日(日)ジュニアリーダー養成事業
 - 7日(日)「野外学習」報告会
 - 25日(木)第3回理事会・合同部会
 - 20日(火)第10回広報部会 (以降、2/9、24、3/2、9、16)
- 1月
 - 24日(土)「家庭の日・オアシス運動」
 - 最優秀作品表彰式並びに
 - 青少年育成指導者研修会
 - 25日(日)第7回健全育成部会
 - 29日(木)第3回家庭部会 (以降、3/16)
 - 2日(月)広報部会「北九州ダルク」取材
 - 2日(月)～13日(金)県民会議紹介パネル展示
 - 及びDVD放映(県庁ロビー)「家庭の日・オアシス運動」優秀作品展示
 - 19日(木)乳幼児教育研修会
 - 23日(月)第5回さわやかマラソン事務局会議
 - 共同募金会ヒアリング
 - 11日(水)さわやかマラソン大会実行委員会
 - 15日(日)青年リーダー養成事業「郷土を知る」
 - 16日(月)総務部会
 - 20日(金)第4回理事会
 - 24日(火)合同研修会
- 3月
 - 11日(水)さわやかマラソン大会実行委員会
 - 15日(日)青年リーダー養成事業「郷土を知る」
 - 16日(月)総務部会
 - 20日(金)第4回理事会
 - 24日(火)合同研修会

新賛助会員(H26年10月23日～H27年3月15日)

個人賛助会員
見雪 和之(北九州市)、三苫 智恵(福岡市)

赤い羽根共同募金



高齢者、障害者、子どもたちなどへの地域の福祉活動を支援します。災害時には「災害ボランティアセンター」の設置や運営にも役立ちます。

青少年育成考

「どんど焼き」



(公社)福岡県青少年育成県民会議 理事
福岡県青少年健全育成町民会議 会長
田和 昭壽

竹のやぐらに点火！勢いよく燃え上がる音、ボン！と竹のはじける音、そのたびに歓声が起ります。しめ飾りや書初めがみるみるうちに灰となり、煙とともに空へと飛んでいきます。例年三校区のどんど焼きに参加しています。校区育成会議主催と行政区主催とがありますが、いずれも子どもと大人の世代間交流の場でもあります。餅つきあり、その餅でぜんざいができ、豚汁や焼き肉などがふるまわれます。年々参加者も増え盛大になっていくようです。世代間交流のイベントは、ほかにもあります。その積み重ねが地域の輪を益々強めるものと思うのです。始めの挨拶で「正月に福の神様を招いてお祝いをします。松の内がすんだら町民会議を支えていることを誇りに思っている次第です。」

いして送りだすのです」と言います。勢いよく燃えるやぐらからあがる炎や灰を見て、小学二年生数人の男の子に「神様が上がったて行くのが見える？」と聞きました。一人の子が「見える！」と言ったのです。こんな時、子どもの純粋さを感じます。この子どもたちが、未来を創造するとなると、学校教育や青少年健全育成会議の果たす役割は、計り知れないと思います。健全な未来を創造するために、強く、賢く、たくましく成長していくことを期待するとともに、責任を痛感するのです。どんど焼きに次いで、この春中学校に入学する六年生とのお別れ会があります。このような行事の積み重ねが、町民会議を支えていることを誇りに思っている次第です。」

(一社)福岡県共栄会の助成金贈呈式に出席

平成26年12月9日(火)、福岡県共栄会の社会福祉活動団体助成金贈呈式に右田会長と中原事務局長が出席しました。当日は受納4団体を代表して右田会長が多額の助成金を贈呈していただくことに衷心から感謝を述べると共に「御浄財につきましても、御趣旨を体して次代を担う青少年の健全育成をはじめとして各種社会福祉施策の一層の発展のために有効適切に使用させていただきます所存であります」と謝意を申し上げます。



編集後記

今回は特集として「北九州ダルク」の活動を取材しました。ダルクは薬物依存からの回復を目指す民間の薬物依存症リハビリ施設です。ダルクの活動を紹介するとともに「薬物依存症」で悩んでいる方や家族、関係者の方々に何らかの支援、情報提供になればと思います。参考にしていただければ幸いです。

広報部会長 馬場 京子

青少年の健全育成のために 賛助会員入会のお願い

次代を担う青少年の健全育成を図るため、県民会議では、少年の主張大会、野外学習、マラソン大会など、様々な活動をしています。

県民会議の活動に賛同いただく賛助会員の募集を行っています。会費は左のとおりです。電話(092-643-6001)いただければ、資料をお送りいたします。

賛助会員の年会費

- 個人 1口 1,000円
- 法人又は団体 1口 15,000円
- 特別賛助会員 1口 50,000円

納入いただく方法

会費は、公益社団法人福岡県青少年育成県民会議の次のいずれかの口座に納入していただくか、県民会議事務局に直接ご持参ください。

- 西日本シティ銀行千代町支店 (普通預金) 3053033
- 福岡銀行 県片内支店 (普通預金) 526475
- 筑邦銀行 福岡支店 (普通預金) 1597091
- 福岡中央銀行本店 (普通預金) 1030569
- 県片内郵便局郵便為替口座 福岡 01700-5-4057

